

平成 27 年 2 月吉日

関係各位

一般社団法人 日本技術者連盟  
会長 星野 克美



## 『米国における原子力発電所の廃炉実態調査団』 派遣に伴うご案内

拝啓 時下益々ご清栄の段大慶に存じます。平素はご支援賜わり厚く御礼申し上げます。

本連盟では、今後のわが国の原子力発電所の廃止措置とその放射性廃棄物の対応が益々重要となってくる状況に鑑み、既に多くの原子力発電所の廃止措置を実施中である EU 諸国の実態について、2014 年 1 月と 7 月、廃止措置現場や使用済燃料の取扱い等に関して、ステークホルダーがどのようにかかわってきたのか、或いは広報活動や実施者と自治体等の双方向のコミュニケーションをどう行ってきたのかといった、下記のような項目を中心として欧州 4 カ国の調査を行いました。

引き続きこの度、米国の実態を調査いたします。

### (1) 廃止措置実施者

- ① 廃止措置の理解活動
- ② 利害関係者との係わりの課題について  
どう克服してきたか
- ③ 廃止措置の現状と今後の計画

### (2) 国の方針と関与の在り方

- ① 廃止措置
- ② 使用済燃料の中間貯蔵

### 3) 自治体の原子力発電所建設や廃炉等に関する 関わり方と理解活動 (地元企業の参加などを含む)

- ① 企業が立地した要因調査
- ② 建設にかかる自治体、地域住民との協議状況調査
- ③ 一元的に廃止措置を行う体制を調査
- ④ 地元企業の参画状況調査
- ⑤ 中間貯蔵施設に対する住民理解の状況調査
- ⑥ 使用済燃料輸送時の安全対策、交通状況調査
- ⑦ 利害関係者の理解活動の実態と自治体の関わり
- ⑧ その他

本趣旨をご理解頂き、関係各位のご参加をお願い申し上げますと共に、本調査にあたり、ご希望される質問事項についてご意見ご助言を事務局までお寄せ下さいます様お願い致します。

ご参加頂ける場合は別紙参加申込書に必要事項をご記入の上、2015 年 4 月 20 日(月)までに下記、一般社団法人日本技術者連盟あて FAX(03-6229-1940)又は E-mail(gyomu1@jef-site.or.jp)にてお申込み下さい。

何卒よろしくご検討賜ります様お願い申し上げます。

敬具

一般社団法人日本技術者連盟

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル 5F

TEL : 03-6229-1946 FAX : 03-6229-1940

E-mail : gyomu1@jef-site.or.jp

URL : <http://www.jef-site.or.jp> <http://www.jef-site.or.jp/npgef/>  
<http://www.wkx21c.org>

# 『米国における原子力発電所の廃炉実態調査団』

—原子力発電所の現場視察と米国の主要自治体との相互交流を含む—

## 参加要項

1. テーマ:『米国における原子力発電所の廃炉実態調査団』
2. 期間: 2015年5月31日(日)～6月7日(日) 8日間
3. 主催: 一般社団法人 日本技術者連盟(JEF)
4. 団長: 林道寛氏 独立行政法人日本原子力研究開発機構  
元バックエンド推進部門 部門長  
一般財団法人 エネルギー総合工学研究所 原子力工学センター  
シニアリサーチフェロー

### ■略歴



- |  |  |
|--|--|
| 1978年 動力炉・核燃料開発事業団 入社                    | 《社会的活動・学会活動》   |
| 1994年 動力炉開発推進本部<br>もんじゅ計画管理課長            | 2004年- OECD/NEA 各ワークショップの委員を歴任                                     |
| 1998年 (財)デコミッションング研究協会<br>情報管理部次長        | 2008年-2010年 IAEA International Decommissioning<br>Network (IDN) 委員 |
| 2003年 核燃料サイクル開発機構 経営企画本部<br>バックエンド推進部 次長 | 2012年- IAEA Decommissioning Technology Update<br>技術報告書作成メンバー       |
| 2005年 (独)日本原子力研究開発機構<br>バックエンド推進部門 副部門長  | 2012年- IAEA Decommissioning Database System<br>(Media WIKI) 作成メンバー |
| 2008年 同部門 部門長                            | 2012年-2014年 日本原子力学会 東電福島第一発電所事故<br>調査委員会委員                         |
|  | 2014年- 日本原子力学会 東電福島第一発電所<br>廃炉対策委員会委員 委員                           |

#### 《研究分野》

廃止措置技術、低レベル放射性廃棄物処理処分

### 5. 趣 旨:

今後のわが国の原子力発電所の廃止措置とその放射性廃棄物の対応が益々重要と なる状況に鑑み、既に多くの原子力発電所の廃止措置を実施中であるEU諸国の実態について、2014年1月と7月、廃止措置現場或使用済燃料の取扱い等に関して、ステークホルダーがどのようにかかわってきたのか、或いは広報活動や実施者と自治体等の双方向のコミュニケーションをどう行ってきたのかといった、下記のような項目を中心として欧州4カ国の調査を行いました。

引き続き米国の実態を調査いたします。

### 6. 調査項目(案):

- |                       |                                    |
|-----------------------|------------------------------------|
| ①運転後の系統除染             | ⑩廃止措置方法の選定理由⑪廃止措置工程                |
| ②解体後の除染               | ⑫解体・除染技術(新たな技術開発)                  |
| ③解体技術                 | ⑬自治体の原子力発電所建設や<br>廃炉等に関する関わり方と理解活動 |
| ④廃棄物処理                | ⑭廃止措置後のサイト利用                       |
| ⑤廃棄物貯蔵及び運搬            |                                    |
| ⑥廃棄物処分(ライセンス・廃棄物処分場)  | ①廃止措置体制                            |
| ⑦放射能影響評価              | ②地元企業の参画状況調査                       |
| ⑧環境修復(土壌・地下水汚染)とサイト解放 | ③使用済燃料の中間貯蔵施設に対する住民理解活動            |
| ⑨除染後解体物(クリアランス)再利用    | ④その他                               |

7. 訪問先及び概要: ※訪問先は都合により変更する場合がございますので予めご了承ください。  
EPRI、サンオノフレ原子力発電所訪問のほか、下記の原子力発電所より、  
2～3ヶ所訪問予定です。

### 米国電力研究所 (Electric Power Research Institute / EPRI)

概要: 1972年、電気事業者により電力事業者の為に創設。公益エネルギー及び環境研究のための独立非営利組織(原子力・発電・電力の供給と利用及び環境、電力業界の共有のリソース)。EPRIはTMI事故対応において、除染技術や事故原因究明の解析評価等のR&Dをサポートし、その成果を産業界への橋渡しする役割を担った。

目的: 廃止措置技術の向上に向けた共同調査研究や放射性物質による汚染状況などについて、EPRI Nuclear Sector 関係者との Meeting。

### サンオノフレ原子力発電所

概要: サンオノフレ原子力発電所1号機(San Onofre-1)は、1992年に運転が停止された。当初2013年まで安全貯蔵を行い、2、3号機と合わせて廃止措置を行う予定であったが、即時解体に方針を変更し、2008年には原子炉施設の解体が終了した。また、2、3号機は、蒸気発生器の伝熱管に損傷が見つかり、補修後の安全審査に要する時間や地元住民の合意の観点から2013年6月に廃止措置を決定した。

目的: 解体経験の活用、廃炉体制、地元企業の参画、跡地利用など

### ザイオン原子力発電所

概要: (イリノイ州、PWR、104万キロワット×2基)の廃炉作業が本格化している。同発電所では2010年から廃炉作業を始め、2012年9月時、工程の4分の1を完了。クライブ処分場(ユタ州)への低レベル放射性廃棄物の輸送とともに、使用済み燃料を入れる貯蔵用コンクリートキャスクの敷地内への搬入を開始している。2013年春より、およそ2200本の使用済み燃料搬出に取り掛かり、2020年までにすべての施設解体と敷地の環境修復を終える計画。

ザイオン原子力発電所は、1973年に1号機、1974年に2号機が運転を開始して、両プラントとも四半世紀にわたり稼働を続けてきたが、1997年頃に蒸気発生器からのリークが発覚。交換するためには多額の費用が必要と判明し、同発電所を保有するコモンウェルスエジソン社は1998年に廃炉を決定した。廃炉決定後、同発電所の所有権をエクセロン社が取得。同社はバックエンド事業大手のエネルギーソリューション(ユタ州)と共同で、ザイオン原子力発電所の廃炉を専業とする「ザイオンソリューション」を設立し、2010年に廃炉作業に着手した。

### クリスタルリバー原子力発電所

概要: 米電力最大手デューク・エナジーは5日、フロリダ州にあるクリスタルリバー原子力発電所を廃炉にすると発表した。2009年にトラブルで運転を停止した同原発は補修中だったが、費用が巨額で再稼働が困難と判断した。同社は「シェール革命」に伴う生産量増加で価格が大幅に下がった天然ガスを燃やす火力発電所の建設を検討。早ければ18年の稼働を目指す。クリスタルリバー原発は1977年に運転を開始。2009年秋、加圧水型軽水炉の燃料補給と蒸気発生器の交換作業中に、格納建物のコンクリート壁の外層がはがれ落ちるトラブルが発生。11年にも別の場所で新たな剥離が起き、運転停止が長引いていた。デュークは昨年末、再稼働には最大で30億ドル(約2800億円)以上の費用と8年の年月を要するとの報告書を公表。ジム・ロジャース最高経営責任者(CEO)は5日の声明で「非常に難しい決断だったが、正しい選択だ」と述べた。廃炉完了までの期間は40～60年を見込む。

### キウオーニー原子力発電所

概要: 米電力大手ドミニオン・リソースは2013年、米ウィスコンシン州にあるキウオーニー原子力発電所を閉鎖した。米国のシェールガス生産が急増し、価格が下落したことで、石炭火力発電所の閉鎖に続き、原子力業界にも影響が出始めている。より小規模で使用年数がより長いキウオーニー原発が最初の標的となった。キウオーニー原発は1974年に商業運転を開始。

2011年4月から売りに出されていたが、2033年までライセンスが更新されたにもかかわらず、買い手は見つからなかった。ドミニオンはこの原発の廃炉に関連し、第3・四半期に税引後費用として2億8100万ドルを計上することを決めた。

## ヤンキー 原子力発電所

概要：アメリカの電力大手、Entergy Corporation は 8 月 27 日、バーモント州南部にある Yankee 原子力発電所の稼働を来年の末に停止し、廃炉にすることを決めたと発表されました。同原発は“safe-store”(安全貯蔵)の状態に置かれ、核物質が冷却されて取り除けるまで 60 年間そのままに置かれるとの情報です。

8. 募集人員:15 名 (最少催行人数 10 名)
9. 参加費:¥1,150,000 - (消費税込)
10. 通訳者:ベテラン適任者
11. 添乗員:添乗員は全行程同行いたします。 12. ホテル:一人部屋
13. 旅行主催:万達旅運株式会社ワンダートラベル 14. 総合事務局:株式会社アジア技術移転機構
15. 申込方法:添付申込書に必要事項記入の上、2015 年 4 月 20 日(月)までにFAX(03-6229-1940) 又は E-mail([gyomu1@jef-site.or.jp](mailto:gyomu1@jef-site.or.jp))にてお申込み下さい。申込み受付後、旅行主催である万達旅運株式会社 ワンダートラベル)より手続きに関するご連絡をさせていただきます。
16. 代金支払:総合事務局 株式会社アジア技術移転機構より請求書をご送付申し上げます。

### 一般社団法人日本技術者連盟

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル 5F

TEL : 03-6229-1946 FAX : 03-6229-1940

E-mail : [gyomu1@jef-site.or.jp](mailto:gyomu1@jef-site.or.jp)

URL : <http://www.jef-site.or.jp> <http://www.jef-site.or.jp/npgef/>  
<http://www.wkx21c.org>

# 米国における原子力発電所の廃炉実態調査団

## 日程表（第一案）

※訪問先・発着時間・交通手段等は都合により変更する場合がございますので予めご了承下さい。  
※飛行機はエコノミークラスを利用します。

日次	月・日・曜	都市名	交通機関	現地時間	スケジュール	食事
1	5/31 (日)	成田(NRT)発 ロサンゼルス(LAX)着	UA-033 専用車	15:30 17:30 11:15	成田空港集合 搭乗手続き ユナイテッド航空にてロサンゼルスへ ホテルへ	機内食 昼 ○ 夕 ○ ロサンゼルス泊
2	6/01 (月)	ロサンゼルス サン オノフレ (片道約110Km)	専用車 1h30m	終日	SAN ONOFRE NUCLEAR POWER PLANT 訪問	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ ロサンゼルス泊
3	6/02 (火)	ロサンゼルス(LAX)発 サンフランシスコ(SFO)着 サンフランシスコ パロ・アルト(Palo Alto) (片道約50Km)	UA-1569 専用車	8:03 9:35 午後	サンフランシスコへ移動 ELECTRIC POWER RESEARCH INSTITUTE(EPRI) 訪問	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ サンフランシスコ泊
4	6/03 (水)	サンフランシスコ(SFO)発 シカゴ(ORD)着 シカゴ(ORD)発 グリーンベイ(GRB)着	UA-388 UA-3947	8:15 14:41 15:58 17:00	シカゴ乗換えグリーンベイへ移動	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ グリーンベイ泊
5	6/04 (木)	グリーンベイ KEWAUNEE原発 片道約55Km グリーンベイ(GRB)発 シカゴ(ORD)着	専用車 UA-4743	午前 18:43 19:45	KEWAUNEE NUCLEAR POWER PLANT 訪問 シカゴへ移動	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ シカゴ泊
6	6/05 (金)	シカゴ ZION原発 片道約80Km	専用車	終日	ZION NUCLEAR POWER PLANT 訪問	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ シカゴ泊
7	6/06 (土)	シカゴ(ORD)発	専用車 UA-881	13:20	空港へ ユナイテッド航空にて帰国の途へ	朝 ○ 機内食
8	6/07 (日)	成田(NRT)着		16:10		

# 米国における原子力発電所の廃炉実態調査団

## 日程表（第二案） フロリダ-シカゴ-西海岸

※訪問先・発着時間・交通手段等は都合により変更する場合がございますので予めご了承下さい。  
 ※飛行機はエコノミークラスを利用します。

日次	月・日・曜	都市名	交通機関	現地時間	スケジュール	食事
1	5/31 (日)	成田(NRT)発 ワシントンDC(IAD)着 ワシントンDC(IAD)発 オーランド(MCO)着	NH-002  NH-7114  専用車	9:00 11:05 10:40 12:30 14:49	成田空港集合 搭乗手続き  全日空にてワシントンDC乗継オーランドへ  ホテルへ、  オーランド泊	機内食    夕 ○
2	6/01 (月)	オーランド CRYSTAL RIVER 片道約170Km	専用車	終日	CRYSTAL RIVER NUCLEAR POWER PLANT 訪問   オーランド泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
3	6/02 (火)	オーランド(MCO)発 シカゴ(ORD)着	UA-702	12:50 14:49	シカゴへ移動   シカゴ泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
4	6/03 (水)	シカゴ ZION原発 片道約80Km シカゴ(ORD)発 サンフランシスコ(SFO)着	専用車  UA-355	午前  17:46 20:34	ZION NUCLEAR POWER PLANT 訪問  サンフランシスコへ移動  サンフランシスコ泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5	6/04 (木)	サンフランシスコ滞在 パロ・アルト(Palo Alto) (片道約50Km) サンフランシスコ(SFO)発 ロサンゼルス(LAX)着	専用車  UA-525	午前  17:30 18:55	ELECTRIC POWER RESEARCH INSTITUTE(EPRI) 訪問  ロサンゼルスへ移動  ロサンゼルス泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
6	6/05 (金)	ロサンゼルス サン オノフレ (片道約110Km)	専用車  1h30m	終日	SAN ONOFRE NUCLEAR POWER PLANT 訪問   ロサンゼルス泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
7	6/06 (土)	ロサンゼルス(LAX)発	専用車  NH-005	12:45	空港へ  全日空にて帰国の途へ	朝 ○  機内食
8	6/07 (日)	成田(NRT)着		16:25		

## 参加費に含まれるもの

### I) 旅行上の諸費用

- ・ 団体エコノミークラス航空運賃
- ・ 燃油特別付加運賃、空港税等
- ・ ホテル宿泊費(シングルルーム、税・サービス料含む)、一部食事代(日程記載分(機内食含む)、飲み物代は別)
- ・ 現地陸上交通費(空港・ホテル・視察先への専用バス代、ガイド代、列車代、チップ代等)
- ・ 団長、事務局、添乗員同行費用
- ・ 通訳料

### II) 現地諸機関折衝及び手配料

- ・ 現地手配費用
- ・ 打合せ会/現地配布資料代 他
- ・ 現地事前打合せ出張諸費用

### III) 企画・運営費

- ・ 企画運営費

## その他

- ・ 参加費は、2015年2月17日現在の運賃及び15名以上の参加に準拠したもので、ご出発前に参加人員に変更のあった時には、参加費用に変更される場合もありますので予めご了承下さい。
- ・ 尚、申込み後はキャンセルチャージが発生致しますのでご注意ください。

## 参加費に含まれないもの

- ・ 渡航手続き諸費用(旅券取得費用、渡航手続き取扱い料金等)
- ・ 米国ESTAは参加費には含まれていません。2010年9月8日より、全てのビザ免除プログラム参加国(VWP)の渡航者は、旅行促進法により定められたElectronic System for Travel Authorization (ESTA)の有効可能な認可をお持ちで無い場合には、米国ご出発までに所定の手続きを行って下さい。詳細は下記をご参照下さい。  
<http://japanese.japan.usembassy.gov/j/visa/tvisaj-esta2008.html> 及び <https://esta.cbp.dhs.gov/esta/>
- ・ 個人的経費(ホテルにおける電話代、クリーニング代、チップ等)
- ・ 集合時及び解散後の交通費
- ・ 超過手荷物料金(エコノミークラスは20kg以上)
- ・ 任意の海外旅行傷害保険
- ・ 障害・疾病に関する医療費

## 取り消し料金

### ◎旅行上の諸費用(航空運賃、ホテル宿泊費、現地地上交通費等)

- ・ 実施日から起算し、さかのぼって30日前以降3日前まで : 費用の20%
- ・ 実施日から起算し、さかのぼって2日前以降1日前まで : 費用の50%
- ・ 実施日当日の取り消しは、全額申し受けします。

◎運營業務費、共通経費等は別途申し受けしますので予めご了承下さい。

## 一般社団法人日本技術者連盟 役員構成

会長	星野 克美	一般社団法人 日本プライバシー認証機構 会長 多摩大学 名誉教授
顧問	斎藤 信男	慶應義塾大学 名誉教授 工学博士
	唐津 一	東海大学 名誉教授
理事	井戸田 勲	特定非営利活動法人 日本プライバシーコンサルタント協会 専務理事
	梶原 豊	高千穂大学 名誉教授 経営学博士
	浮舟 邦彦	学校法人 滋慶学園 総長 Ph.D.
	森 和義	有限会社森テクノマネジメント 代表取締役 技術士(電気・電子部門、経営工学部門)
	佐藤 正文	社団法人 日・タイ経済協力協会 顧問
監事	田代 空	特定非営利活動法人 日本プライバシープロフェッショナル協会 前会長
	寺村 康佑	元財団法人 日本人事行政研究所 理事長 株式会社サイバープロ 取締役

## 一般社団法人日本技術者連盟 委員会 委員構成

### 『国際原子力発電技術移転機構』委員会

委員長	佐々木直彦	前財団法人発電設備技術検査協会 理事長
顧問	野々内 隆 荒井 利治 宅間 正夫	財団法人経済産業調査会 理事長 前社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 副会長 社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 会長
委員	池本 一郎 小川 順子 金氏 顯 河原 暲 佐川 涉 関村 直人 津山 雅樹 富岡 義博 新田 隆司 藤井 靖彦 宮野 廣 諸葛 宗男	財団法人電力中央研究所 特別顧問 博士(エネルギー科学) 東京都市大学准教授/女性研究者支援室長 WIN-Japan 会長 社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 代表幹事 元社団法人日本原子力学会 会長 社団法人日本技術士会 理事 技術士 工学博士 東京大学大学院 工学系研究科 原子力国際専攻 教授 工学博士 社団法人日本電機工業会 原子力部長 電気事業連合会 原子力部長 前日本原子力発電株式会社 常務取締役 東京工業大学名誉教授 工学博士 特定非営利活動法人日本保全学会 特別顧問 法政大学 客員教授 工学博士 東京大学公共政策大学院 特任教授

### 『アフリカ・中東技術者フォーラム』委員会

委員長	森 和義	一般社団法人 日本技術者連盟 理事 技術士(電気電子部門、経営工学部門)
委員	畑尾 成道 坂倉 省吾 島 直 佐藤 正文 小泉 英雄 鄭 紹良	技術士(建設部門、総合技術監理部門) 財団法人海外技術者研修協会 理事 工学博士 ICTコンサルタント・前GBDe消費者信頼委員会 筆頭シェルフ 前 財団法人 海外技術者研修協会 理事 社団法人 日・タイ経済協力協会 専務理事 技術士(電気電子部門) 台湾總統府 科学技術諮問委員会 委員 国家実験研究院 ボードディレクター 無任所大使、工学博士・PE
海外委員	井戸田 勲	一般社団法人 日本技術者連盟 専務理事
	AOTS各国同窓会メンバーよりご依頼中・順不同	
アジア地区	Himpunan Alumni AOTS Indonesia Persatuan Alumni AOTS Malaysia AOTS Vietnam Alumni Society (AVAS) ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) Association of Iran's Japan Alumni (AIJA)	
中東地区	AOTS Alumni Society, Cameroun (AOTSA-CAMEROUN) AOTS Alumni Society, Egypt AOTS Alumni Association - Ghana AOTS Alumni Society of Tanzania The AOTS Alumni Society of South Africa	

## 総合事務局 : 株式会社アジア技術移転機構 (Asia Technology Transfer Organization, Inc. (ATTO))

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F TEL : 03-6229-1950

お申込みは別紙に必要事項をご記入の上、事務局までFAX(03-6229-1940)又はE-mail : [gyomu1@ief-site.or.jp](mailto:gyomu1@ief-site.or.jp)でお送り下さい。

『米国における原子力発電所の廃炉実態調査団』  
参加申込書一般社団法人 日本技術者連盟（JEF） 行  
FAX 03-6229-1940

フリガナ			
会社名・団体名			
英文名			
所属名/役職名			
英文名			
フリガナ	生年月日	大正・昭和・平成・西暦	
参加者氏名		年	月 日
パスポート記載名 (ローマ字)	学位		
E-mail	携帯電話番号		
勤務先	ご住所 〒 -	電話番号	FAX番号
ご自宅	ご住所 〒 -	電話番号	
フリガナ			
担当責任者名	印		
所属名/役職名			
旅券(パスポート)について: 今回の旅行に必要な旅券をお持ちですか。(日本帰国日までの残存が必要)			
① はい <input type="checkbox"/> 旅券番号: _____ 有効期限: 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日			
② いいえ <input type="checkbox"/> 現在申請中 <input type="checkbox"/> 旅券申請書類の作成代行を依頼する。(有料)			
<input type="checkbox"/> 自分で申請・取得する			
ESTAの有無について			
<input type="checkbox"/> 許可済 許可年月日: 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日			
<input type="checkbox"/> 未申請			
喫煙の習慣	有・無	マイルージをお持ちの方は番号を記載して下さい	
通信欄 (ご質問・ご希望等 お書き下さい)			

## 個人情報保護方針

旅行申込書にご記入いただく、氏名、年齢、生年月日、電話番号、メールアドレス、住所、勤務先等の情報は「個人情報」に該当しますので、企画主催・企画実施・取扱旅行社・総合事務局は以下に掲げる個人情報の取扱いに関する基本方針及び個人情報に関して適用される法令を遵守して、お客様に関する個人情報の適正な管理・利用と保護に万全を尽くします。

## 1. 個人情報保護利用の目的

お客様がお申し込みになられた運送、宿泊その他の旅行に関するサービス(以下「旅行サービス」といいます)を手配するために必要な範囲で情報を利用いたします。また、旅行サービス提供機関に対し、お客様の氏名、パスポート番号及び現地滞在先等をあらかじめ電子的方法等で送付することによって提供いたします。

## 2. 個人情報の開示・提供

下記の場合を除き、お客様からお預かりした個人情報を第三者に開示・提供いたしません。

## ア. ご本人の同意がある場合

イ. 旅行サービス提供機関や販売店の手配業務委託先に、旅行サービス手配に必要な最小限度の情報を開示・提供する場合。  
ウ. 法的な命令等により個人情報の開示・提供が求められた場合。

3. 個人情報に関するご質問、又はご意見は、総合事務局にてお受けいたします。

## 企画主催: 一般社団法人日本技術者連盟

<http://www.jef-site.or.jp/npgef/index.html> E-mail: gyomu1@jef-site.or.jp

## 総合事務局: 株式会社アジア技術移転機構

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F

TEL: 03-6229-1950 FAX: 03-6229-1940

<http://www.atto-asia.jp> E-mail: info@atto-asia.jp

## 旅行主催: 万達旅運株式会社 ワンダートラベル

TEL: 03-5157-2207 FAX: 03-5157-2208